

# 入善町 議会だより

## 3月定例議会

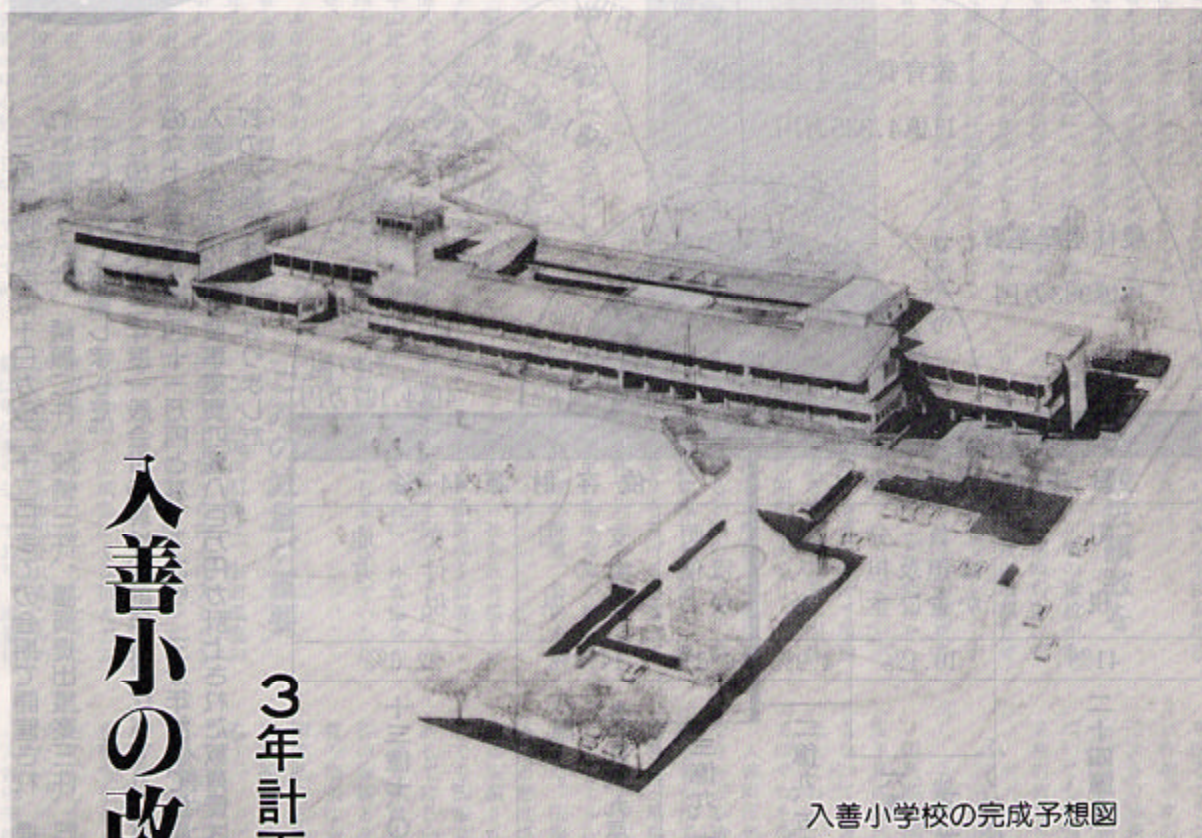
№. 61号

発行所 入善町議会

編集 入善町議会だより編集委員会

富山県下新川郡入善町入膳3,255

☎ 0765 (72) 1100



入善小学校の完成予想図

### 入善小の改築にゴー!

3年計画で総額15億5000万円

63年度予算 60億5,841万円を可決

- 中央通り線いよいよ着手
- 老人福祉センター横に屋内ゲートボール場
- 総合体育館建設用地も取得
- 入善用水沿いに、ふれあい道路
- 下飯野地内には水公園

商工業振興条例を制定して

企業誘致に本腰を

NYUZEN TOWN

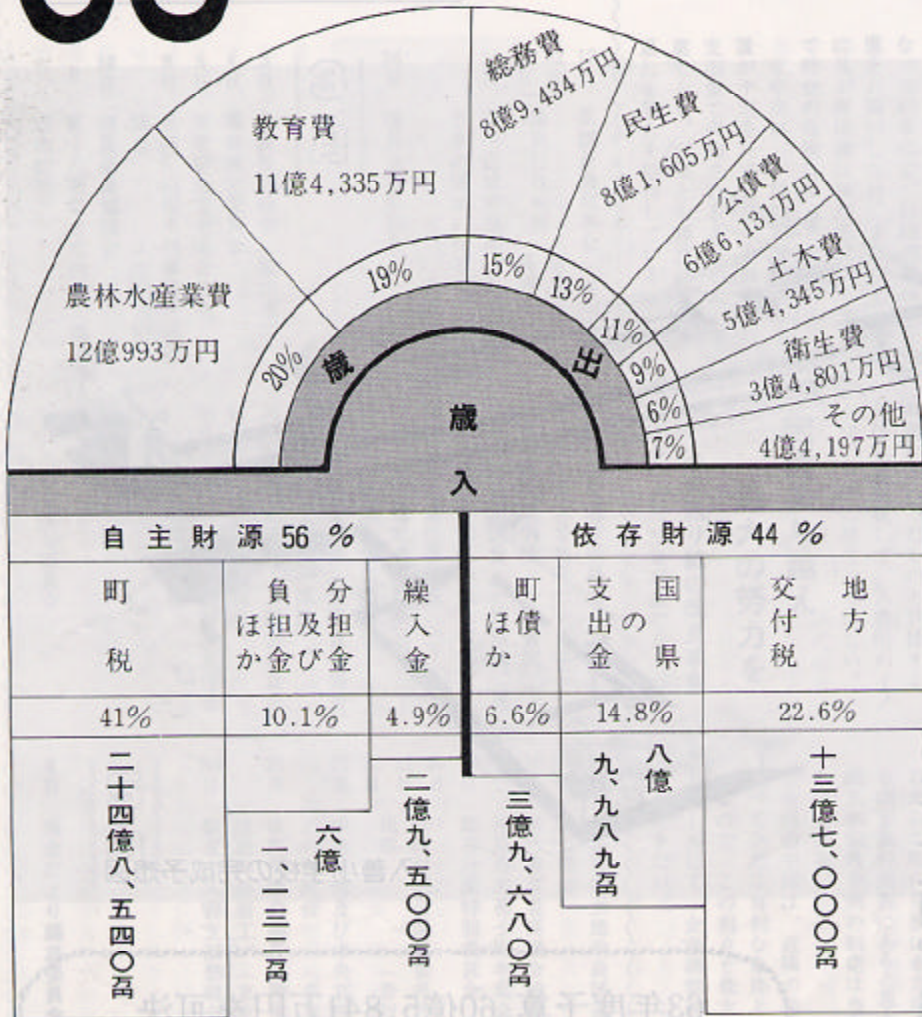
予算

一 般 会 計

60億5,841万円で

63年度

スタート



三月定例議会は十日から二十二日までの会期で開催され、提出された議案十八件、請願二件、陳情三件、議員提出議案三件、同意案一件について審議しました。  
このうち六十三年度一般会計予算は、前年度に比べて九・八割増の六十億五千八百四十一万円となっており、三カ年計画で建設する入善小学校の初年度事業費四億八百万円が計上された教育費は五十割の大幅な伸びとなりました。

特別会計

総額

35億8,426万円

		(前年対比)
○ 国民健康保険	14億6,608万円	19.4%増
○ 老人保健医療	20億9,323万円	20.3%増
○ 簡易水道	2,096万円	4.3%減
○ 育英奨学資金	279万円	18.4%減
○ 分譲宅地	120万円	14.3%減

議員提出議案

- ◎北陸新幹線の優先着工に関する意見書 (可決)
- ◎地方議会権能の充実整備等を図る地方自治法改正法案の早期成立について要望決議 (可決)
- ◎新大型間接税に反対する意見書 (否決)

# 中央通り線改良に着手

## 芦崎集落整備に一億六千万円

### ◆◆議決した主な議案◆◆

#### 海岸保全にも

一億六千万円

※六十三年度一般会計予算

前年に比べて九・八割、五億四千百万円を増加し、歳入歳出それぞれ六十億五千八百四十一万九千円とした。

主な投資的事業は次のとおり。

#### 補助事業

- ・農免農道整備事業 一億三千七百一十一万円
- ・農村基盤総合整備事業 八千五百二十七万円
- ・団体営林道開設事業 三千七百九十三万円
- ・海岸保全施設整備事業 一億六千七百三十六万円
- ・集落環境整備事業 一億六千六百六十九万円
- ・若島們山寺線新設改良、舗装事業 五千七百五十三万円
- ・柴垣邑町線改良事業 四千五百五十五万円

二千三百七十七万円

中央通り線整備促進事業 八百六十五万円

水公苑整備事業 一千五百二十八万円

小中学校施設整備事業 一千八百万円

屋内ゲートボール場建設事業 二千二百八万円

総合体育館用地取得事業 五千十万円

#### 総合体育館の用地取得

#### 単独事業

- ・地方道路整備臨時交付金事業 三千七百六十九万円
- ・黒部川河口公園整備事業 一千七百三十四万円
- ・入善小学校建設事業 四億八百万円
- ・じょうへのま遺跡保存整備事業 一千八百三万円
- ・土地改良事業補助金 五千四百十八万円
- ・農道改良舗装事業 二千四百六十二万円
- ・水路等整備事業（国営かん排関連含む） 四千九百五十九万円
- ・ふれあい道路整備事業 一千五百万円
- ・道路改良舗装事業 八千八百六十五万円
- ・無雪害街づくり整備事業

#### 四週六休制を実施

※職員の勤務時間に関する条例の一部改正

労働基準法の改正に伴い、一週間の勤務時間の上限「四十八時間」を「四十六時間」に改めた。また、国家公務員の「四週六休制」の実施に準じ、町の職員にも月二回土曜日を休日とする「四週六休制」をとりいれることにした。

※昭和六十三年分固定資産税の納期の特例に関する条例

固定資産税の評価替えに伴い、課税台帳の縦覧期間が「四月一日から四月二十日まで」となったので、納期を「五月一日から

五月十六日まで」に変更した。

※保育所条例の一部改正  
小摺戸保育所の新築移転に伴い、住所を「入善町一宿六二三番地」に改める。

※商工業振興条例の制定  
町内に工場や店舗を建設する際に用地のあっせんや周辺の環境整備、補助金の交付などを行う基準を定めたもので、企業の誘致に弾みがつくものと期待される。

※道路占用料条例の一部改正  
道路法施行令の一部改正にあわせて料金の改定を行った。

※町道路線の認定  
運動公園上田線、延長五百七十三メートル、幅員十メートルを認定。

※六十二年一般会計補正予算  
国庫補助事業確定に基づく減額が主なもので、補正予算全体では三千六百五十六千円を減額し、歳入歳出予算を五十九億八千二百二十一万二千円とした。

※老人保健医療特別会計補正予算  
高齢化社会の到来とともに医療技術の高度化などにより医療費が増加したため、医療給付費一億一千六百万円を追加し、予算総額を十八億八千四百九十九万三千円とした。

※簡易水道特別会計補正予算  
舟見簡易水道第一水源の用水ポンプの能力低下と、第二水源のポンプ制御盤の配線を修理す

#### 三千六百万円を減額

#### 採択された

#### 請願・陳情

- ◆入善中学校夜間照明施設設置についての請願
- 道路舗装工事方に関する陳情（五十里地内）
- 町道上原上村国道線の拡幅に関する陳情（上野地内）
- 町道上田上飯野線の拡幅に関する陳情（上野地内）

#### 継続審査とした請願

◆いかなる名称、形式を問わず新大型間接税導入に反対する請願

#### 野坂和敬氏を選任

#### 固定資産評価審査委員

3月21日に任期満了となった尾山芳雄氏の後任に野坂和敬氏（東狐）を選任することに同意。

るため三百五十万円を補正した。  
※育英奨学資金特別会計補正予算  
山本正勝氏から教育奨励のために寄せられた二百万円を積立金として補正計上した。

一 3月 14・15日 一般質問 町政

7議員が “登壇”

環境厳しい農漁業

強力な行政指導を期待

自民党代表質問 岡島松次郎 議員

問

わが国は戦後四十年、幾多の難関を乗り越え、世界一の経済大国に発展した。このことは日本国民の努力と英知を結集した賜ものである。反面諸外国との貿易摩擦による市場開放、特に農産物の自由化などにより農家は愛着心も魅力もなくなりつつある。また、水産業においても二百カイリ制限や、日ソ漁業交渉にみられるサケマス漁は非常に厳しく今後の見通しは立たない。さらに商店経営においても活気がなく沈滞の一途をたどるものと心配される。

これら産業の活性化にあたり、いかなる方法で指導されるのか、その対策を聞きたい。

町の指導にも限界

町長

転作強化や米価引き下げなど、米をめぐる情勢は極めて厳しい状況になっている。町としても営農団地化、農地の流動化促進など、コストの低下や転作物、特産物などにも重大な関心をもち、少しでも農家の所得を引き上げるよう

努力しているが町行政として限界がある。農協や県出先機関とも連絡を密にし情報収集や研修などによりその指導に努めたい。

漁業問題については、新聞報道によれば日ソサケマス交渉が暗礁に乗り上げたと言っているが一日も早く解決されるよう願っている。沿岸漁業は、とる漁業から育てる漁業へと転換しており、これに対応するため町も出資し、稚魚の育成を行って成果を上げている。町の商業が落ち込んでいるのは事実で、商工会や商店経営者に十分考えてほしいと問題提起している。具体的には大型店舗が無いのも原因の一つであり、大型店舗をつくるための協同組合が設立され準備が進められている。これを契機に商業の活性化につながればと思っている。

少ない投資的事業

問

新年度予算は六十億五千八百四十一万円で、その内容は新規事業が少なく、反面義務的経費が増大し、町民が最も期待の大きい投資

的経費は十七億二千七百万円、二十七億である。これで町民の多くの要望に応えていけるか。

また、公債費比率は六十二年度末二十・一割と高くなっており、危険信号に突入したと感じる。町長の所信を伺いたい。

二一スに定める努力

町長

新年度予算編成に当たって、町税、地方交付税などの増収が大きく期待できない反面、義務的経費が増加しており、これをどう調整するか苦慮した。基本的には事業の優先度、緊急度を見極め、限りある財源の中で町民二一スに定めるよう予算化した。

全国平均を上回る

一人当たり医療費

問

主な事業としては、入善小学校の建設、駅前中央通り線の着工、屋根付ゲートボール場の建設などで、最小の経費で最大の効果を挙げるよう取捨選択した。

町債については、適債事業として低金利のものを借りており、県下でも悪い方のランクではない。六十二年度の公債費比率は十四・二割、六十三年度は十三・七割であり、債務負担と合わせても新年度十九・八割、六十四年度以降はさらに下がると見込んでいる。



▲サケ・マス船団、今年はいつ出港  
——昨年5月23日の経田漁港——

国民健康保険特別会計は毎年二億円の増加となっており、一人当たり医療費は全国平均の十五万四千円に比較して入善町は八万円も上回っている。普段の保健対策が大切で、自分の体は自分で守る観念を持つことが必要と思う。町行政として国保会計も含め、どのように対処されるか。

**苦しい国保会計**

町長

国保の被保険者は約三千五百人で、そのうち老人が千八百人と高齢化が進んでおり、高度な医療を求めて入院されることが多く、医療費も増加している。

国保制度は昭和十三年発足以来五十年、いま国保の運営は大変厳しい状況になっている。国会に国保改革案が提出されているが、このことや医療費の動向を見ながら場合によっては一般会計からの繰入れを行って税の上昇を極力抑えたい。

病氣予防対策としては健康教室の開催、検診活動の強化、人間ドックの利用を通じて早期発見、早期治療を行い、また健康づくり町民のつどい等を開催して、健康、医療問題の理解を深めたい。

**自覚と責任を**

**職員の不祥事件**

問

昨年来町職員の不祥事が度重なり

り町民の信頼を損ねたことは遺憾である。今後事故防止対策をどう進められるか。

町長

不祥事が重なり町民との信頼関

**農漁商工の調和を**

**企業誘致が最重要課題**

清新クラブ代表質問 本多幸男議員

問

六十三年度の地方財政、収支財源は、全体で一兆七千二百五十九億円不足となっている。これは、国庫補助負担率の引き下げや、国民健康保険制度の見直しによって地方負担が増加になったものであるが、これを五十九年当時の元の補助率に戻すよう、あらゆる機会を通じて働きかけてほしい。

国と地方の財政構造を改革するために、全国町村長会などの力を結集して一大運動の先頭に立つ考えはないか。

**要望したい**

**税財源の再配分**

町長

地方の時代と言われて久しいが、本当の意味での地方の時代となるためには、地方への行政的な権限の委譲、税財源の再配分などを

係を損ねたことを深くお詫びする。職員の研修を強化し、公務員としての自覚と責任ある行動により、二度とこのようなことがないように自身を含め十分留意したい。

係を損ねたことを深くお詫びする。

**町づくりの主役は**

**町民のみなさん**

町長

総合計画については、町づくりの主役は町民であるという認識に立ち、広く町民の参加と英知を結集して策定作業を進めたい。

現時点で予想できる主な事業は、入善小学校の建設に続き総合体育館の建設、中央通り線の改良、宅地造成や雇用促進住宅の誘致、黒部川大橋の建設や権蔵橋のかけかえ、下水道整備などの問題が考えられる。

町の将来像である活力ある町政の実現には、工場誘致が最も効果的だと考えており、東京入善会や関西入善会、中央百庁懇談会などを通じてお願いをしている。

**二十一世紀に向けた**

**総合計画の策定**

問

町の新総合計画はまだ三年残しているが、入善町の将来像はどうあるべきか、長期的展望に立った総合計画の抱負を聞きたい。

町の基幹産業である農業は、今危機に直面しており、行政の援助が必要である。これからは農漁業商工業の調和を考え、とりわけ公害のない優良企業の誘致が重要な課題であり、豊富な地下水、勤勉な労働力、北陸自動車道の全線開通などのメリットを最大限にアピールして、企業誘致に取り組んでいただきたい。

**預金利子も**

**大切な財源**

問

国民大多數の反対によって廃案となった売上税に変わって、新型間接税が論議されている。全国二十か所で開催された地方公聴会では、不公平税制の是正が先決だという慎重論が多数を占めたと報道されている。町長は税制改革についてどのように受けとめているか。

**直間比率の**

**見直しが必要**

町長

日本の税制は、直接税に対する依存度は欧米先進国に比較して高いのが現実である。直接税に対する依存度が高ければ、景気の好不況によって税収の変動が激しくなるので、直間比率の見直しは必要だと思ふ。

政府は、先の国政選挙で大型間接税を導入しないと約束した経緯もあるため、新たな負担を伴う税制改革を行うときは、国民に成案を提示し、真意を問うことが必要だと考える。

**固定資産は**

**評価替えに**

税務課長

六十二年度町税収入は、当初予算に対して個人町民税約六千万円、法人町民税約四千万円、合計一億四千万円の増収が見込まれる。

六十三年度の個人町民税は、政府の経済見通しや地方財政計画を基にし、税率構造の緩和、人的三

▶生ごみ処理器に助成金があります



### 生ごみ処理器の効果

控除の引き上げなどの地方税法改正によって八千万円程度の減税になると思うが、前年度当初調定額に三・五割程度の所得の伸びを計算して、九億五千万円を算出した。固定資産税は評価替えの年であり、三か年で田は六割、宅地は九割増、家は据え置きとして見積りを行った。

**収入役**  
預金利子の一千三百万円は、市場金利の動き、過去の実績、財テクへの参加の意欲を含めながら見積りを行い、残り十万円は、町営住宅敷金に発生するものである。

**問**  
入善町は生ごみの収集を年間通して週三回行っており、県下でも最も住民サービスが進んでいるとも言われている。

昨年、生ごみ処理器購入に二百四の補助金が出されていたが、それだけ出回っているか。また、その効果はすぐ出ないと思うが、数字的メリットをつかむ見通しなどを聞かせてほしい。

し尿くみ取りについて町民からの苦情などがないか。水洗トイレ、浄化槽がめざましく普及してきており、住民サービスの向上という見地から委託業者の複数化を検討されてはどうか。

### 百八十トン減量

町長

ごみの量は、六十一年度六千五百三十二トンを年々七割余りの率で増えており、生活が豊かになるのと比例して増えるようである。

生ごみ処理器は三百五十基に助成を行っており、六十三年で二百基分の補助を予算化している。これを全部消化すれば、既設のものを含めると一千基くらいになり百八十トンの生ごみが減量化に

なる。今後も生ごみの減量化、生ごみ処理器の普及のピーアールに努めたい。

し尿委託業務は昭和二十八年一月から実施、昭和五十八年から計画収集を行っている。過去にはお盆、年末に集中して迷惑をかけたが、清掃センターの定めた投入計画に基づいて、収集運搬及び清掃を計画的、効率的に年間サイクルでくみ取りする制度を導入してからは、特別な苦情はきていない。現状では、複数の業者に仕事をさせる必要はないと考えている。

## 二千年国体の競技誘致を

### 指導者の養成と確保が急務

本田 幸光 議員(自民)

を開きたい。

### スポーツ振興課を設置

町長

新年度からスポーツ振興課を設置して町民一スポーツの浸透や指導者の養成、施設の拡充整備などに積極的に取り組んでいきたいと思っている。

特に、地域や職域で日常的に、継続的に活動できるような体力づくりと合わせた競技スポーツの向上に力を入れていきたい。

団体の種目については、入善町

**問**  
二千年国体が富山県で開催されることに決定した。

昭和三十三年の団体では入善町にどの種目も来なかつたが、今度はぜひとも競技種目を誘致する努力をお願いしたい。具体的に何か対応をしているか。

二千年国体の選手として活躍を期待されるのは現在の小学生が中心をなすものと思う。

競技力を向上させ、選手の強化を図るために、教員を含めた指導者の養成と充実について今から考えておく必要がある。当局の見解

### 総合体育館を

#### どうして建設

で実施可能なものは何か、早期に検討をして誘致に努力したい。

団体は体育の祭典であるが、開催行事として美術展などを開催して富山県のピーアールをしたらどうかと知事に提案し賛同を得ているので、町民会館を利用して開催行事にも参加したいと思う。

### 運動公園横で用地取得

町長

総合体育館の建設用地として、運動公園に隣接して三千五、六百坪の用地を取得したい。

体育館の具体的な施設の内容はこれから検討していかねばならないが、温水プールや、その他の運動施設が十分そこで対応できるような内容と大きさを考えなければならぬと思っている。

### シヨッピングセンターの建設に積極的な協力を

問

入善町の商店数は四百五十六店、年間売上高は百五十九億三千万円で、県下一人当たりの購買額で計算すると約四十億円近くの金が他市町へ流出していることになる。

昨年十月に入善ショッピングセンター設立準備組合が設立され、売場面積二千坪、五百台収容の駐車場三千五百坪、広場、緑地、遊歩場などに二千五百坪、合計八千坪の計画となっている。

用地のあっせんや公共施設の整備、助成金の交付などを盛り込んだ商工業振興条例の制定が提案されているが、町はどの程度積極的に協力できるのか。

**問題は 用地の確保**

町長 大型ショッピングセンターの建設によって町の購買客の他市町への流出に歯止めがかかることを期待している。

用地の確保が一番大切な問題であるが、予定地は住居地域の指定や農地転用などの法的規制があるので許可申請などの指導、助言を行いたい。

また、予定地には都市計画法による児童公園を計画していたのでこれを機会に用地を取得して建設し、センターと共同で運営に当たりたい。

一方、町の商店街の中心的な商店がショッピングセンターに参加すると、既存の商店街が由の抜けたようにならないか心配している。これからの商店街は駐車場も大

**悩み多い父子世帯**

**精神的に温かい行政を**

町長は提案理由の中で、福祉の心の高揚や社会福祉団体、地域ボランティア活動を助長して温かい触れ合いに満ちた人間性豊かな町づくりに努力したいと述べられている。

今まで母子家庭の問題について聞く機会があったが、父子家庭についての生の声を聞くことがなかった。先日、炊事、洗濯、掃除など、男のプライドを捨てて涙の現実の声を聞き、自分に置き換えてみると大変重要な問題であると感じている。

町の母子家庭と父子家庭の実態はどのようになっているか。またそれぞれに対する福祉制度に違いがあるか。

物質的な恩恵も大切だが精神的な温かいプレゼントも政治の大切な要素である。今後の父子家庭対策についてどのような考えを持つ

事であるが、楽しみながら子供連れで買物できるようなのではないかと難しく思うので、商工会とも十分連絡をとりながら対応したい。

広瀬喜代志 議員(自民)

**少ない 援助制度**

町長 父子家庭に対する公的な援助制度には医療費の補助と所得税法上の優遇措置があるが、救済措置としては父子家庭には冷たいのが現状である。

また、男の責任を感じてか、行政や民生委員、社会福祉協議会を通じての相談がないのも事実である。実態は十二分でないと思うのでアンケート調査などを実施し、できるだけ相談にのるよう対応していきたい。

福祉課長

母子家庭は百四十八世帯あり、近年は離婚によるものが増加している。保護制度には、町の制度として

医療費の助成、町営住宅の優先入居、小中学校の入学、卒業の祝い品の贈呈、除雪見舞金の給付があり、国の制度には児童扶養手当の支給と母子福祉資金の貸付制度がある。

**C-1事業で 町のイメージアップ**

町長 父子家庭は三十九世帯で、町では医療費の助成と、入学、卒業の祝い品の贈呈を行っているが、国の保護制度はない。

人々の価値観も物の豊かさから心の豊かさへと大きく変容し、真の豊かさを追求する時代になってきており、地方の競争の時代、知恵と行動の時代と言えらる。

町のイメージアップのためのC-1事業として、シンボルマークや標語を広く町民から募集することは、町民の英知、創造を結果した町民参加の町政になるものと思うが、決定した後はこれをどのように生かすか、施策を考えているか。

町長

町のイメージをシンボルマークや標語に置き換えて、町民はもとより県内外にアピールするのがC-1事業の目的であり、町の発行

するパンフレットや特産物のラベルなどに使いたい。農協や商工会その他の団体にもお願いして使ってもらいたいと思っている。

**メリットが大きい 新黒部川大橋の建設**

町長 北陸自動車道が全線開通になれば工場立地の促進、流通の拡大、観光客の誘致など、経済に及ぼす影響は計り知れないものがある。道路網の整備は町の活性化にとって非常に大きな要素であり、このような時期に新黒部川大橋の建設構想が出てきたことに大きな意義がある。

単に橋をつくるための運動でなく、観光資源の乏しい町に与えられた天然の恵みである黒部川の利用を考え、長期展望の上に立った橋として考えるべきである。

**地元負担でできれば 早い時期に建設可能**

町長 下黒部橋と黒部大橋が朝夕の通勤時に渋滞するので、黒部市と新黒部川大橋建設促進期成同盟会を設立し、中間に橋を建設するため陳情を進めている。

建設には二つの方法があり、一つの方法として農林水産省サイドでお願いすれば、ある程度早い時期に可能と思うが二十三・三割の地元負担ができるかどうか問題である。

八号線バイパスとして建設省サ

# コシヒカリを給食に 野菜も地元産を利用

五十里隆章議員(自民)

学校給食に町で作る農作物が利用されていない。新鮮で安全な作物を給食に提供することは大きなメリットがあると思う。

休耕で多くの水田が放置されており、これらを使えば野菜等の供給は十分可能である。農業の現況を考えれば一品目でも二品目でも取り組む必要がある。

給食用の米は県内でほとんど生産されていない。良質米生産地を跨っている入善町の米が全く使われていないということは矛盾していると思わないか。

## 安定供給と 価格が問題

町長

町で生産される野菜が学校給食

イトでやってもらえれば地元負担がないのでありがたいが、建設時期は相当に遅くなる。黒部市内が八号線の現道拡幅になるのか、バイパスをつくるのかを決定していないので、これによって大きく左右されるものと思う。

に使われることは非常によいことだと思いが、一定の量を安定して確保できるのか、他の産地と競合できるのかということが大きな問題である。

学校給食であまりおいしくないご飯を食べるといことは、かえって子供たちを米から遠ざける原因となり、おいしい入善産のコシヒカリを食べることが一番よいとは思いますが価格の問題がある。難しい問題だと思うので十分検討させてほしい。

新鮮な野菜を子供たちに季節にあわせて食べさせることは望むところである。

過去に直接農家から購入したこともあるが、組織的に継続的に発展させることができなかった。

価格や数量の確保、品質、納期の厳守などの条件が克服できれば

## 住宅地の造成に努力を 中央通り線の代替地

町長

各学校で利用するよう指導したい。入善町でできたおいしいコシヒカリを成長盛りの子供たちに食べさせたいが、価格その他の問題があつてなかなか至難である。

中央通り線の改良事業が六十三年度から実施されるが、現在の状況と将来計画を聞きたい。

当然のことながら住宅移転の問題が出てくるが、不安なく喜んで移ってもらえる住宅地の造成が必要だと思いが計画はあるのか。

旧田圃の払い下げ用地の用途指定外使用について、国鉄清算事業団との話し合いはどうなっているか。いつごろ結着の見込みか。

## 今年度は 測量調査

助役

入善駅から八号線までの八百四十二メートルを幅十六メートルとし、両側に三・五メートルの歩道を設ける。

六十三年度は駅前から上町線までの測量調査と一部用地買収を行う予定である。

これまで沿線関係者による事業促進協議会、物件移転の調整をするための調整委員会が組織されており、内部では、代替地について沿線の町有地がどの程度利用可能なのか、物件の再配置をどのよう

にするかなどを検討している。

駅前用地を購入した時点では、売買契約書に都市計画の代替用地として使うという字句を入れられなかったため、駐車、駐輪場、公園として十年間の用途指定になっている。

## 職員の配置を適正に

町長

各地区にある公共施設の管理に正職員が配置されている。

町民会館の建設によって、これは地区公民館としての役割が主なものになっており、貸し館としての性格が強くなっている。

正職員の配置は無意味で、かえって左遷人事と受け取られ、勤労意欲の減退につながる恐れがある。行政需要の多い課もあるため、これらを増強し住民ニーズに積極的に応えるべきである。

## 都市計画課は増員

町長

町の出先機関へ職員を派遣しているが、一定の期間をこへ行って施設の管理運営をするということ

は職員として当然のことである。役場で動くのも出先で動くのも町民に奉仕をするという気持ちに

## 組織の細分は 硬直化の要因

町長

社会教育課を分割して生涯学習課とスポーツ振興課をつくるというものが、生涯教育とスポーツは一体のものであり、分割することによって総合的判断や連携を阻害する恐れがある。

住民ニーズに臨機応変に対応するには、むしろ大課大係化を図って柔軟性を持つことが大切である。十分に考えて対処してほしい。

## 県からスポーツ主事

町長

最小の経費で最大の効果をあげる行政組織の確立が大きな政治的課題である。

現在の社会体育係に県から派遣スポーツ主事が来るので十分に課としての陣容を備えているものと思う。

職員の増員をせずに二千年団体や町民スポーツの振興に対応できるよう、組織を弾力的に運用することが町民ニーズに応えることだと思っている。



# 五百万円の出資金 棚山開発のゴルフ場建設

九里 郁子 議員(共産)

**問**  
六十三年度予算に棚山観光株式会社に対し五百万円の出資金が計上されているが、町はこの計画の内容はどうかと聞いており、地権者はどれくらい把握されているのか。地権者の大半が反対し、用地買収が進んでいない状況なのに、出資金を予算化したことは、会社に対してゴーサインを出したことになるかと考えるがどうか。

**町長**  
町にとって税収面、雇用力、地域の活性化などについて、開発に伴ってどのような見通しをもって予算化されたのか聞かせてほしい。

## 舟見一帯の開発を期待

棚山観光開発株式会社は、棚山周辺地域にゴルフ場やレジャー施設の建設経営を目的として、六十二年十月二十八日に設立し、六十二年二月十八日説明会が開催された。

施設計画は、開発面積百十五・五畝、コース十八ホール、クラブハウスやスターティングハウスなどを建設し、将来は二十七ホールに

する計画である。地権者は約二百七十名、朝日町と入善町大体五十割ぐらいつつになると聞いている。本町から準備段階において雇用に

最近では余暇の増大に伴って、スポーツ・レジャー施設などの充実が期待されており、ゴルフのプレー人口も非常に増えている。また、明日温泉や舟見温泉の開発と棚山開発とが有機的に結びついて、観光開発のバネになるものと期待し

算計上したが、住民のコンセンサスや会社の運営のあり方等を十分念慮した上で支出したい。娯楽施設の利用税は、年間大体四百五十万円ぐらいはいるものと推測している。

## 自然破壊にならないか

**問**

ゴルフ場建設は、必然的に森林や水系の大規模な破壊、汚染をもたらす、水害や土砂崩れなどが懸念されると思うが、保全対策をどのように考えているのか。

この開発計画について、町として

の意見を具申する義務と責任を負っている。具体的な意見を聞かせてほしい。

町では、林道奥中野線開設事業について、六十二年度、六十五年度の事業計画をされている。ゴルフ場の線引きにはいつているか、うがどのようになるのか。

## 極力自然を残す

**町長**

面積は朝日町と入善町では七割三割ぐらいで、町の地内にコースはできないので、極力自然を残した形で行うと説明を受けている。自然環境の保全や埋蔵文化財の発掘保存、災害防止、土砂の流出や

河川の汚濁防止など総合的に判断し、開発に伴う環境保全について十分実態を見極め、議会の意見を反映しながら協定に臨みたい。林道の開発行為には、開発の対象面積が三十畝以上ないと補助対象にならないと定められているため、森林面積の確保が問題である。

計画区域の上の方にも町の行政区画内の林道開発地域があるので、それが対象になるか、そこで三十畝確保されるかなどを関係上局と話を話している。

## プライバシーの侵害

### 未納者一覽表の配布

**問**

昭和六十一年度の町税の納入率は九十九・六割と大変高い数字を

示している。これは町民一人ひとりの高い納税意識と百二十一ある納税貯蓄組合の存在によるものと思ふ。

納税組合長に未納者一覽表を送付し、納税の督促を依頼しておられるが、これはプライバシーの侵害であり、憲法が保障する基本的人権の侵害ではないか。

組合が本来の目的から外れ、町内の和を壊しかねないと思われるので、このような方法はやめていただきたい。

## 町税の高収納率は納税組合のおかげ

**町長**

納税貯蓄組合は昭和二十七年に発足しており、県下の市町村の中でも非常に高率の収納率を誇っているのも納税貯蓄組合の皆さんの努力のおかげだと思っている。

この組合の役割は納税の道徳の高揚や納税思想の啓蒙、納税の督促、口座振替納付の推進、納税資金の貯蓄あつせんなどであり、それぞれ別の組合で組合規約などを作って運営している。

町では年度末などに一斉督促をお願いしているが、個人のプライバシーの保護、未納の方への意思や状況等を十分理解していただくよう留意をしている。納税貯蓄組合と行政とは、三十年以上も良好な関係を保持してきた長い歴史があり、信頼関係を十二分に尊重しながら、今後ともプライバシー保

護に十分留意していきたい。

## 保育料徴収を条例で

**問**

保育料徴収事務は市町村の自治事務になり、町は自主的に徴収できるよう改正が行われた。しかし厚生省は費用徴収基準のガイドラインを町に提示し、指導するのは法の趣旨を逸脱している。町はこれらの制約を乗り越え、地方自治の本旨にのっとり自主的に徴収事務を行うことが求められている。

町が設置する保育所は、地方自治法第二百四十四条の公の施設の利用につき、使用料を徴収することとが定められており、ことから、使用料であると考えられるので、他の料金徴収と同じように条例で定めて行うべきであると解釈するがどうか。

## 県内すべて規則で運用

**町長**

市町村長は、本人またはその扶養義務者から負担能力に応じ、費用の全部あるいは一部を徴収することができるものと規定されている。地方自治法上の規定では、分担金使用料または手数料というふうに定められているが、児童福祉法による分担金は、地方自治法上の分担金、使用料または手数料の中には該当しないと理解している。

県の方でも分担金を取るような施設が何か所かあるが、それぞれ

規則で運用している。また県下の市町村においても、条例で定めるところは一つもない。今後とも

議会と十分相談しながら運用したい。

# 一千万円農業の確立を

## 町の農家収入は平均二百万円

問

入善町の農家戸数三千七百戸、四千畝で収穫される米の総収入は五十九億円、その他の農産物を含めて七十八億円と推定されるが、一戸当たりで平均するとわずか二百万円である。農産物輸入自由化や米価の引き下げ、奨励金の減額、転作の拡大など、まさに農業の危機である。

このようなかで経営の成り立つ一千万円農業を確立するために、営農組織の育成や地域特産物の育成、米の消費拡大など、どのように進めていく考えか。  
二十一世紀の農業を営営するにはハイテク農業に取り組まなければならないと思うが、



▲ 園家山キャンプ地前に設置された緩傾斜堤

野坂俊一議員(自民)

これらの考えはどうか。

### 土地の高度利用で低コスト農業を実現

農政課長

規模的には二十畝あれば水稲単

作でも一千万円は可能であるが、今後多様化していく社会の中で、もう少し面積を拡大していく必要がある。生産の仕組みを変え、土地を高度利用することによって、低コスト農業が実現できると思う。

地域特産物の振興については生産・加工・販売ルートの確保など努力と協力がなくては実現は困難である。米消費拡大を図るためには、農協が主体となって産地精米を消費者に売り渡す体制をつくるべきで、農協にも説明をし、それに対応する機械施設等の設置計画についても現在検討をお願いしている。

将来を展望した農業については革新技術、先端技術を取り入れながら、質のよい、生産性の高い、収量性の高いものを求めて低コストへつないでいく必要がある。

町長

農業を入善町の基幹産業と位置づけ、行政の執行や予算編成などにも十分留意している。農業の根幹の問題の解決は町政段階では極めて無理であるが、町段階でどうすれば農業を発展させることができるのかという立場で今後も努力をしていきたい。

### 少ない農業指導費

問

本年度の農業予算は十二億円で九・八割の地であるが、そのうち最も大切な農業の指導費、振興費は七千三百万円、わずか九割で

ある。この九割で農業の省力化や組織の強化、中核農家の育成、農産物の消費拡大、流通の販路拡大などを行えるのか。

### 少ない経費で効果を

農政課長

当初予算では前年よりも減額になっていくが、水田農業確立のためのハード的なもの導入については現在県と協議中で、これが確定すれば前年以上の子算になると思う。最少の経費で最大の効果をあげるように努力していきたい。

### 農家の花嫁対策を

問

六十二年度に農協の結婚相談所に四十七名の申し込みがあり、その中でゴールインしたのが二名だと聞いている。行政としても、何らかの援助策が必要でないか。結婚相談所ぐらい設けるような気持ちで検討してほしい。

### イベントで交流の機会

農政課長

町内企業に勤めている方々や都会の女性を招いての地域交流、イベントを企画して交流の機会を持つことによって少しは解決できるのではないかと考えている。

県内で結婚相談所を持っているのは、入善町農協と滑川市農協で、行政機関には設置されていない。

町長

県では農家の花嫁の問題について、相談員を設置するという前向きな姿勢を取っているようだが、町としては、今直ちに農村花嫁対策課を設置するということはできない。関係機関とも十分相談し、実態を見つめながら対応していきたい。

### 水を中心とした

### 飯野北部地区の開発

問

環境庁の名水百選に選ばれた黒部川扇状地湧水群を中心として、飯野北部地区は、名水や園家山の景観を利用した魅力ある町づくりの指定を受けた。水公苑の工事に着手され、地元住民は非常に喜んでいる。この開発計画の将来構想はどのようなものになっているのか概略を聞きたい。

### あふれる水に笑顔が写る町

町長

地域の自らの手による個性豊かな町づくりの指定を受け、あふれる水に笑顔が写る町づくりをテーマとして、水を主役としたコミュニティ広場、語らひの広場を設ける計画である。

整備計画としては、水に集う、水に生きる、水との出会い、水辺の公園、水と花の五つのゾーンを設定し、水の祭りの広場やアクアプロムナードなどを考えている。また、園家山キャンプ場の拡大や

野外音楽堂の建設、周辺道路の整備も行い、将来はレジャーボートの泊地の造成なども行って、地域の開発、活性化を図っていきたい。

**圓家山キャンプ地に  
高波が流入**

海岸保全に毎年多大な経費をかけているが、寄り回り波のたびに被害が出ている。本年度は、どの地域に離岸堤や消波ブロックを投入されるのか。

圓家山キャンプ地前に緩傾斜堤が造られたが、それを乗り越えて高波がキャンプ地にはいつている。離岸堤設置の予定はないのか。

**離岸堤設置を陳情**

町長 八幡、神子沢、五十里地先の離岸堤が一応完了し、吉原地先では離岸堤と離岸堤の間に副離岸堤を初めて設置した。

圓家山キャンプ場前は、キャンプ場と海岸が一体となって海に親しんでもらえる環境づくりとして緩傾斜堤を新設した。この工法では、離岸堤がなくとも越波しないと言われていたが、実際には一度越波してキャンプ場にはいったので、前方に離岸堤を設置するよう建設省へ陳情している。

現在は堤防の先端部に導水のため溝を設置したので、松林に塩水が流入することはないと思う。

**行政視察記**

**7億円のスノートピア  
新井市の克雪対策**

早川誠一議員

二年続きの暖冬で克雪の苦勞の少なかつた去る二月二十二日、全国でも有数の豪雪地帯とも言われている新井市の克雪対策を視察してきた。

新井市は、新潟県の西南部で、上越の穀倉地帯と言われ、その昔徳川時代は、直轄地として、郷藏の置かれていた地である。明治二十五年にすでに町政施行し、以来近郷を合併しつつ、昭和三十一年に現在の市となった。面積は百七十三・二三平方メートル

南北に流れる矢代川、関川の水は古くから農業や電力に多目的に利用されており、電力を利用した化学工業が発展して、最近では電子精密工業都市として注目されている。また観光、商業の面でも力が注がれ、わが町と同様に商店街の活性化対策として、共同店舗やショッピングセンターの建設計画も進められている。

**十メートルを超す降雪**

さて、視察目的の克雪対策について、市役所を訪れて担当課から説明を聞き、現地の視察を行い、暖冬とはいえ道路わきには一メートルを超える積雪、空地には除雪の山が高まり、豪雪地帯のすごささえ感じました。

新井市の平年の降雪量は、過去十年平均では十・六センチ、六十一年の大雪年では十六センチ、一日の最大降雪量は一・五センチ等、信じられないような豪雪地帯である。

**町内ぐるみで除排雪**

この大雪を新井市ではどう克服しているのだろうか。新井市では市民ぐるみでつぎのような対策を立てている。

- 1、雪国の生活を明るくする条例
- 2、融雪施設整備には補助金交付
- 3、克雪住宅づくりの資金対策
- 4、克雪生活圏整備事業

その他いろいろな対策を講じながら行政と市民が一体となって克雪

に取り組んでいる。

克雪対策は、機械での除排雪、消雪パイプ、流雪溝が主であり、市の除排雪計画に従って能率的に施設の利用を図っている。中でも、地形勾配を利用した総延長二十一キロに及ぶ流雪溝が大きく活用されており、町内ごとの利用計画によって定められた時間内に町内ぐるみの除排雪が行われている。

また、老人家庭などでは隣り同志が共に助け合っており、雪国の人々の暖かい人情を感じた。

**除雪対策費は八億円**

水不足対策としてスノートピア（循環式流雪溝）が建設され、下流で水と雪を分離し、水を高圧ボ

ンプで上流に送り返し、反復利用されている。その施設費は七億円で全額国県で賄われ、また、市の除雪対策費はなんと八億円、わが町の八倍である。

このように多くの施設は行政と市民の心の通った取り組みによって大きな成果を上げていることが何よりも頼もしく感じられた。

雪国の生活を明るくする住民意識は、寒い雪の中にも暖かく、新井市の発展が約束されているように思われる。私達は町に帰ったら町民のみなさんにこの事を伝え、私達の何十倍もの苦勞をしている人々のあることを知ってもらえるだろうかと言いつつ、雪国新井市を後にしました。



▲豪雪地帯の新井市でスノートピアを視察  
(階段状のものは水と雪の分離装置)

### 行政視察記

## 便利で快適な街づくり

### 長岡市のニュータウン事業

竹内 壮太 議員

おとなりの新潟県は、近いようで遠く、様々な面で認識不足のことが多すぎるのではないかと、思いつつ視察をしてきたが、ここで長岡市について記述したい。

人口は十八万三千人、新潟県第二の都市であり開越高速、北陸高速、そして上越新幹線開通で今後飛躍的発展を遂げるであろう基礎

をそなえている都市である。

長岡市発展計画三つの都市像として

- 一、豊かな心をはぐくむ文化都市
- 二、健康で心ふれあう福祉都市
- 三、機能的で住みよい産業、技術集積都市を掲げ、個性豊かな国際文化都市をめざしており、その第三項の「機能的で住みよい産業、技術集積都市」を中心に視察した感想を述べてみたい。

#### 散水消雪の発祥地

まず、日本有数の豪雪地帯の中でどう雪に取り組んでいるか。地下水による散水消雪装置は、この長岡市が最初に設置し日本各地に広まったものであるが、最近では地下水の大量くみ上げによって地下水位が低下し、地盤沈下の恐れがあることから川水を使った流雪溝、路面流水道路の改善に懸命に取り組んでいる実態を見、克雪、利雪対策を県、町一体となって研究しなければならぬと強く感じた。

次に、長岡テクノポリスの一環としての「新産業センター」、長岡工業導入団地は、いずれも、機械工業、繊維工業、食品工業を中心として長岡インターチェンジに隣接し、関東・関西と直結した流通拠点となっている。その一面にYKK産業も入居していた。

#### 電線も地下に埋設

二十一世紀に向けての長岡ニ

ュタウン事業は、便利で快適なまちづくりとして新都市システムの共同溝、廃棄物運搬用パイプラインシステムの導入、そして道路網の整備など、魅力ある住環境づくりをしている。

共同溝とは、幅三・二メートル、深さ二・九五メートルの溝で道路下であり、ごみ収集管路、電力線、水道管、電話線が内蔵されているもので、地上にあつた電柱などは一切なくする画期的なまちづくりの基本構想である。

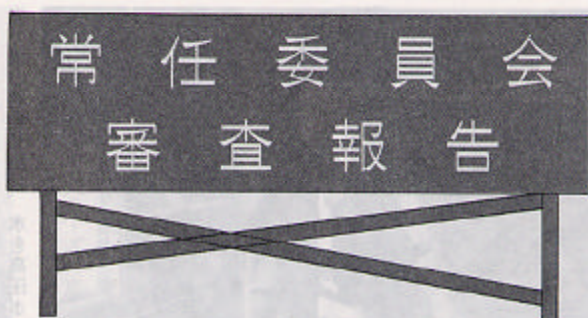
#### パイプラインで

#### ごみ収集

特に注目すべきことは、家庭から出るごみは豪雪のため冬場はごみステーションが役に立たないため、廃棄物運搬用パイプラインシステムを導入していることである。

簡単に説明すると独立住宅、アパートなどにごみ投入口が設置されており、地下のパイプを通じ圧縮空気で集塵センターに送り込まれ、ごみ分離圧縮機にかけられてトラック積込場へと移動するわけである。まちの美観、交通安全、快適な住宅地として、わが入善町においても近い将来、ぜひ取り組まなければならないと思う。

以上、紙面の関係上省略部分が多々あり、表現のつたなさをおわびし、今後議会の中で論議しながら未来のまちづくりの一助にしたいと思ひます。



#### 町税の増収を期待

本年度の一般会計予算は、総額六十億五千八百四十一万九千四百で前年度に比べて五億四千七百七十一万九千四百、九・八割の伸びとなっている。

増額の要因は、町税の伸びと財政調整基金の繰り入れによるものである。

である。

町税の増収見込みは、景気回復に伴う法人町民税の伸びと固定資産税の評価替えによるもので、その他の税を合わせて、一億六千万円の増収を期待している。これは町民の血税であり、勤勉な町民のみなさんに深く感謝を申し上げると同時に安易なムダ使いのないよう配慮されたい。

国では貿易摩擦の解消のために公共事業を大幅に増加し、内需拡大に力を入れている。

町としても少しでも有利な補助事業を獲得するための努力をお願いしたい。特に今きびしい状況にある農業や水産業の活性化のために、高率補助事業の獲得には全力を挙げて取り組んでもらいたい。

#### 職員研修を通じて

#### やる気と対応を

歳出予算の中で注目されたのは職員研修費の百二十六万円で、わずかな金額だが、地域のリーダーとしての意識改革や、高度な専門知識と情勢の変化に的確に対応できる能力を備えた人材の養成が必要である。

今住民が求めていることのひとつは縦割り行政の弊害を取り除くことである。他の課との連携プレーや柔軟な対応力を身につけるために常に自己啓発を行っていたいただきたい。

二十一世紀を展望した町の将来像を想定し、新たな行政施策を進

めていくには若い職員の英知の結集が必要である。また幹部職員には、若い力の提言を受け入れる度量と判断力が求められている。この職員研修を通じて若い職員のやる気をひき起こし、活力ある職場づくりに進まされたい。

### マイクロボスの配車を公平に

町民から要望の多いマイクロボスの対応として、レンタルの予算が計上されたが、各団体からの要望が重なることが多くあると思われるので、不公平の起らないよううに充分な調整を願いたい。

町税の取納については、町民の納税意識の高さと税務職員の努力、納税貯蓄組合の協力によって徴収率は県下でもトップクラスの高率となっており感謝している。

しかし一方では、一部ではあるが納税貯蓄組合の完納奨励金をもたらうために、ブライバシーの侵害になりかねない問題が起きているとも聞いたので、税の徴収に当たっては、組合とも充分な連絡をとられ万全を期していただきたい。

職員の勤務時間に関する条例の一部改正は、時代のすう勢であり当然なことと思うが、このことによつて住民サービスの低下や職員の超過勤務につながるまいよう配慮を願いたい。

### 間接税論議は時機尚早

いかなる名称、形式を問はず新

大型間接税導入に反対する請願は住民だけでなく町財政に与える影響も大きいので導入しないよう各議員の理解を求める発言があったが、この問題については国の方でも現在白紙の状態であり、どういふものかわからないような現時点で判断するのは時機尚早であるとの意見が多数を占めたので継続審査とした。



### 中心校にふさわしく

#### 入善小学校の建設

昭和六十三年度一般会計予算のうち、当委員会付託部分は二億八千八百四十二万六千円で、前年に比べて三億一千八百三十七万四千円、十六・二割増となっている。

本年度予算の中の超目玉である入善小学校の建設に総額十五億五千万円、三年計画で着工に踏み切られたことに対して、基本計画の策定や財源確保に努力された教育委員会ならびに財政当局、そして町長の決断に対して感謝したい。

現在、基本計画を終えて実施設計の段階だということであるが、入善町の中心校として、すべての

### 国体の競技誘致を

屋内ゲートボール場の建設が県のモデル事業として補助対応になり、現在の予算をさらに増額してゲートボール場だけではなく、テニスなどもできるよう計画変更を検討しているとのこと期待をしている。

総合体育館の着工に向けて用地買収費が計上された。二千年国体の富山県での開催が決定し、二三年のうち各市町村での開催種目も決定されるに聞いている。町でも早急な誘致種目を決定し、県に対して急来りをお願いがある。また国体での主力選手となる現在の小学生の指導育成や指導者の確保にも特段の配慮、努力をお願いしたい。

### ごみの減量が重要

ごみ処理の問題は、生活環境の保全や公衆衛生の向上に欠くことのできない重要な問題となつてきている。幸いにも、今年度から二か年計画で広域圏による粗大ごみ処理場が建設されることになったが、各家庭から排出されるごみの量は年々多くなつており、減量化

### ふくれあがる医療費

#### 必要な日常の健康管理

を固めることが必要である。昨年、生ごみ処理器の一部助成で大きな成果をあげた経験を生かして、不燃焼物や粗大ごみの減量についても、何か方策がないか、鋭意検討研究をお願いしたい。

国民健康保険特別会計は、前年度予算に対して十九・四割の伸びとなつており、年々医療費が増大しており、予算そのものについてはやむを得ない。

入善町は他町村に比べて脳卒中やガン、心臓病などの成人病が多いと言われており、できるだけ早期発見、早期治療と共に日常の健康管理、予防対策についての指導ヒアールに努力されたい。

また、医療圏にも過大な投薬があると懸念され、医療機関とも充分に協議される機会をつくり、少しでも医療費が減少する方策を検討してほしい。

老人保健医療特別会計は二十三割の増額となつている。老人医療費の増大は全国的な傾向であり、精算払いという予算でもあるので、現行制度上はやむを得ないものと思う。

### 入善中にナイター設備

育英奨学資金特別会計は、山本正勝先生からの全額寄附によるもので、心から敬意と感謝を申し上げます。

入善中学校夜間照明施設設置に

ついでに請願は、地域住民の強い要望であり、早急に実現されるように対応をお願いしたい。



### 産業建設委員会

委員長 早川 誠一

### 前途厳しい農業経営

#### 青島大根漬は好評

農林水産業費には十二億円という多額の子算が投入され、中でも農業費は七億八千四百円で七千三百万円の増額となっているが、ほとんどは、農道や水路の改修に係るものである。

農政の本来の仕事である農業振興費と指導費は逆に一千万円の減額となつている。米価引き下げ、転作拡大、加えて国外からの農産物自由化の圧力に、農業の前途はきわめて厳しいものがある。

こういふ時こそ、これからの農業の生きる道はどこにあるのか、農民と共に悩み、考えていただきたいと思う。

青島大根のふるさと産品づくりは、明るい材料である。昨年は六千本を出荷し、買入業者からも好評で年間を通しての供給を希望されていると聞いている。町としても加工場の建設や保冷庫の設置に助成を行うなど強力な指導・育成をお願いしたい。

### 水と緑の ふれあい道路

黒部川河口公園での植樹祭は、緑化思想の啓蒙と河口公園整備を兼ねた一石二鳥のアイディアである。

県下の市町村木をメインに、松、楠、サツキなど六百本を植えるそうだが、折角植えたものが枯れないように管理には充分注意を払っていただきたい。

ふれあい道路の新設は、運動公園と町民会館を結ぶ水と緑のシンボルロードとして町民の憩いの場になるものと期待される。地元とのコンセンサスを充分に図られ、夢のある立派なものにしていただきたい。また町道の舗装や消雪装置

の設置なども町民の要望が多いので、予算の許す限り対応に努力願いたい。

### 漁業の振興に配慮を

日ソ漁業交渉が未だ妥結の見通しが立たず、沿岸漁業も昨年は振わなかったということ、町の漁業従事者にとっても厳しい状況になっていくので、行政の暖かい配慮をお願いしたい。また、十一月に及ぶ海岸線は毎年荒波にもまれて浸食の危険にさらされている。

今年度は、芦崎に副離岸堤の設置が予定されており、全額、国庫支出金で実施されるありがたい事業である。今後とも陳情に陳情を重ねる努力を期待している。

### 観光行政に本腰

今回、町のイメージアップを図るため、シンボルマークや標語の募集を計画し、さらに町の最高峰である負釣山の紹介や観光パンフレットの作成、北陸自動車道神林パーキングエリアでの観光案内板の設置など、ようやく観光行政に本腰がはいったものと評価する。今後とも継続して、入善町のイメージアップに努力してほしい。

### 困難乗り越え 最大の努力を

中央通り線の改良事業  
三十年來の懸案事業であった都

市計画道路中央通り線の改良工事が、果敢事業として着工の運びとなった。用地買収や代替地確保、商店街再配置の問題など多くの困難が予想されるので、地元関係者とのコンセンサスには充分配慮をなされ、円滑に事業が遂行されるよう最大の努力をお願いしたい。農業が足踏み状態にある今日、これからの町の発展は企業誘致による商工業の振興にあると思うので、商工業振興条例の制定は当を得たものである。

条例の意味は、近隣の他市町に比べて企業に有利な条件となっているので、この利点を最大限にアピールして、企業誘致に努めていただきたい。

## 議会

## 日誌



- 2月**
- 5日 全国議長会総会（東京都）
  - 9日 下新川三町議会議員協議会総会
  - 10日 小杉町議会視察来町
  - 14日 雪っ子まつり
  - 16日 新川広域圏議会（魚津市）

- 3月**
- 3日 県議長会総会（富山市）
  - 4日 議会運営委員会
  - 5日 黒東交通安全協会総会
  - 8日 黒部川沿岸水利事業促進協議会（宇奈月町）
  - 10日 議員全員協議会
  - 〃 第十八回議定例会（提案理由説明）

- 4月**
- 11日 議会運営委員会
  - 29日 小杉町議会（総務・文庫委員会）視察来町

- 5月**
- 6日 議会だより編集委員会

- 17日 県議長会理事會（富山市）
- 22日 議員行政視察（新井市）
- 23日 議員行政視察（長岡市）
- 24日 新川広域圏農団地農道整備事業の促進に係る陳情（東京都）
- 26日 議員全員協議会（東京都）

- 11日 議会運営委員会
- 13日 雷鳥三号増発せれモニ
- 14日 議会定例会（一般質問）
- 15日 議会定例会（一般質問、質疑、各常任委員会付託）
- 16日 総務常任委員会
- 17日 産業建設常任委員会
- 18日 文教厚生常任委員会
- 22日 議会定例会（各委員長報告、質疑、討論、採決）

- 26日 地域交流ホーム運営委員会
- 27日 町連合婦人会総会
- 29日 小杉町議会（総務・文庫委員会）視察来町
- 30日 警友会入善支部懇親会
- 13日 入善管内土地改良区連絡協議会総会
- 18日 身体障害者協議会総会
- 〃 舟見寿楽苑十周年記念式典
- 19日 都市計画特別委員会
- 20日 県町村議会議長会県外行政視察（香川県）
- 21日 中央陳情及び中央官庁職員との懇談会（東京都）
- 22日 県町村議会議長会陳情（北陸新幹線着工）（東京都）

### 編集後記

〇三月定例会一般質問の最後に大林議長の幹事計らいによって三月末の退職を目前にした盛田農政課長が登壇し、現在の農業が抱えている問題点や今後の町の進むべき方向などについての考えを述べられました。役場に奉職以来、他課勤務の十年間を除いた二十有余年、農政一筋に歩んでこられ、正に町の農政の生き字引と言えます。今後もし日に向日にアドバイスをお願いしたいものです。

〇議会だより編集委員となって一年余り、固い内容で、一体読んでもらえるのだろうか、各議員の質問の主旨が伝わっていないか、答弁は、……などと心配しながら、57号から今月号まで五回の編集発行に携わってきましたが、今回をもってお役二免となります。六月議会の次号からは新しいメンバーと交替いたしますが、今後ともご愛読いただきますようお願いいたします。

- 議会だより編集委員
- 大林 政雄 早川 誠一
  - 若島 信行 岡島松太郎
  - 野坂 俊一 広瀬 義孝
  - 佐藤 学英 本多 幸男